

## 三郷市在宅医療・介護連携推進協議会 昨年度の振り返り

在宅医療・介護連携推進事業を進めていく上で、在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる **4つの場面**を意識した取り組みが必要である。

### ①日常の療養支援

目指すべき姿	医療・介護関係者の多職種協働によって患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた場所で生活ができるようにする。
--------	---

### ②入退院支援

目指すべき姿	入退院の際に、医療機関、介護事業所等が協働・情報共有を行うことで、一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護両方を必要とする状態の高齢者が、希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする。
--------	--

### ③急変時の対応

目指すべき姿	医療・介護・消防（救急）が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者の急変時にも、本人の意思も尊重された対応を踏まえた適切な対応が行われるようにする。
--------	--

## ④看取り

目指すべき姿	地域の住民が、在宅での看取り等について十分に認識・理解をした上で、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・看護関係者が、対象者本人（意思を示せない場合は、家族）と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。
--------	--

昨年度の  
取り組み



②入退院支援

④看取り（重点的に議論）

・協議会では、**PDCAサイクル**に沿った取り組みイメージとして、

①現状分析

②課題抽出（課題が生じている背景や原因、解決すべき課題、対策の対象の具体化）

③具体策

上記の検討を行った。

<b>PDCAサイクル</b> とは	Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）を繰り返すことで、業務を継続的に実施・改善していく手法。切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築を推進するために、PDCAサイクルを繰り返し、本事業を推進していくことが必要である。
--------------------	---

## 【入退院支援】での検討

現状分析



課題抽出

(対象ごとに課題を抽出)

入退院の一連の流れの中で、医療と介護の有機的な連携を行うことができるか？

- ・在宅サービスの認知不足
- ・入院中は相談員が対応できるが、外来患者までは対応できない
- ・退院後のサービス調整を行う連携と時間の確保
- ・医療・介護それぞれの理解不足

(市民向け)

- ・市民が在宅療養の生活イメージを持てる状況をつくる
- ・これから必要となるかも知れない人たちが、容易に手段を知ることができる環境を確保  
→適した媒体の用意、各地域での講座実施等

(医療・介護共通)

- ・地域包括ケア病棟の機能を知る機会をつくる
- ・医療と介護それぞれが制度について理解できる状況をつくる
- ・定期的な集まりや情報共有できる場を設置

### 入退院支援ルールについて



平成31年4月に運用を開始して、昨年で3年を迎えた。

令和3年度に医療介護事業所へアンケートを実施、それをもとに課題を抽出。

- ① 広報の推進
- ② シートの活用方法の検討
- ③ 運用及び活用（取り扱う上でのルール理解及び使用推進の協力）
- ④ 名称統一（三郷市入退院調整ルール⇒三郷市入退院支援ルールへ変更）

①～③は引き続き  
協議会にて検討

## 【看取り】での検討

現状分析



課題抽出



具体策

- ①市民が在宅での看取り等について十分に認識・理解されているか
- ②ACPに関する医療・介護・福祉従事者の理解は十分にされているか
- ③実際に人生の最終段階における意思が十分に共有されているか

- ①「縁起でもない話」とするイメージが強く、話題にしにくい傾向がある  
⇒イメージの改善、関心を高める活動が必要  
市民が考えられる環境や仕組みが必要
- ②ACPについて、医療と介護関係者が担う役割を認識する機会が必要
- ③看取りについて、本人・家族等・支援者の間で、本人の意思が十分に共有される機会が必要

- ①市民向け：ACPを知る機会を増やす（子どもの段階からなど）  
絵本の活用⇒広報部会にて検討  
医療・介護職向け：終末期に入った方や家族向けに、看取りまでの流れをまとめてあるパンフレットを用いて説明を行う。
- ②ACPに関する研修の実施。⇒研修部会にて検討  
サービス担当者会議を活用して、在宅主治医とケアマネージャーが中心となり、経過や予測を関係職種に伝える仕組みづくり。

絵本の作成



- 市民向け医療介護啓発冊子として、3年間にかけて絵本の作成を行った（3部作）
- ・令和2年「介護の絵本」を作成
  - ・令和3年「人生会議の絵本」を作成
  - ・令和4年「在宅看取りの絵本」を作成